

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)
バイオインフォマティクスとシステムズバイオロジーの国際連携教育研究プログラム
ワークショップ参加レポート

田中道廣:

IBSB2009 に参加して

今年の7月26-31日にかけてアメリカのボストンで開催されたIBSB2009に参加してきました。学会の内容は、一人20分の口答発表と10~15分の質疑応答形成で行われました。質疑応答は活発に行われていました。また研究の内容もモデル構築やマシンラーニングなどの分野の発表が約8割を占めており、配列解析などのバイオインフォマティクス分野の研究発表が非常に少なかったのが印象的でした。私は本学会第一回から参加していますが、これは近年、本学会にみられる傾向だと思います。自分の研究分野が配列解析であることもあり、少し寂しいといった感想でした。今後の学会の発展のためにももう少し分野を広げて発表演題を募集してもよいのではないかと思います。

私は口答発表だったのですが、今回の発表が2回目でした。前回は本学会で二年前に発表したのですが、その時は質問がなく深く落ち込んだことを覚えています。幸い今回は質問があったのですが、ディスカッションにはほど遠く、自分の英会話能力の向上に努めたいと思いました。

本学会は学生による発表がほとんどであり、それもあってか聴衆の先生達からの質問もしていただけます。普段日本にいる時、外人の方々に英語で自信の発表をするような機会はほとんどないので、自信の発表や質疑応答の能力を確認できる良い機会になっていると思う。また学会の影響もあり英会話能力向上に向けての意識が非常に強くなりました。

最後に、この学会へ参加の機会を与えてくださった金久實教授と学会運営に携わった皆様に感謝します。